

# 飲食店運営会社社長、道の駅など再生

飲食店運営のシー・ピー・アイ(千葉県八千代市)は「道の駅やちよ」(同市)や複合商業施設「牧の原テンプル」(同県印西市)などの運営を

受託し、地域の活性化を支援してきた。社長の岩崎肇さんは米国でラスベガスを見た経験から、人に夢や元気を与える空間作りを追求する。

京成勝田台駅近くにあるフランス料理店「貝殻亭」(八千代市)。大通りから脇道に入ると、3000平方メートルを超える広大な敷地が奥に広がる。暖かい季節にはバラが咲き誇る庭園があり、洋菓子店

や物販店なども併設される。レトロな洋風の建物は、来店客にテーマパークに来たような気分させられる。

岩崎社長が2002年に同店を承継した。当初は集客に苦戦したが、自ら厨房に立つなどして切り盛りし、試行錯誤しながら数年で黒字化。女性客らで昼夜にぎわう施設にした。物販などにも事業を広げてきた。

貝殻亭での実績を買われ、当時集客に苦しんでいた「道の駅やちよ」から支援の依頼があった。道の駅内にある飲食店を運営しながら、収穫体験や料理教室など、地元住民や観光客が交流できる企画を次々と開催。減少していた来客数を増加に転じさせた。

その後、17年から牧の原テンプルの開業に向けた計画に参加するなど、活躍の場を広げてきた。

米国留学前の放浪旅だ。現地で中古車を購入し、西部の砂漠地帯を走っていると、ガソリンが切れかけたころ、ラスベガスが一望できる場所にたどり着いた。「これほど夢のある場所を人の手で提供できるのか」と驚いた。

人を幸せにする場所を提供することを仕事にすると決意。留学をやめて帰国し会社を設立した。父親には「共同設立者」として協力してもらった。ワインの輸入販売など様々な事業を手掛けた後、貝殻亭の事業継承の機会を得た。成功事例が増え、業界での知名度は高まっている。ただ

「手掛ける案件は各拠点の距離が車で数十分の範囲内」と決めている。自分の目が届く範囲に絞り、改善点を常に探せるようにするためだ。今後とも八千代を地盤に、にぎわいを呼び込む仕事を続ける。

# 空間作りで千葉・八千代に活力



岩崎社長は貝殻亭の経営を軌道に乗せ、物販などに事業を広げた

岩崎社長の仕事の原点は、

(千葉支局 出口広元)